

# I. 2011年度3回生「専門演習」を選択するにあたって

2回生のみなさん、1・2回生の間、どのような大学生活を過ごされましたか。基礎演習で学び友人を得て、講義や講座、ボランティアやクラブ活動、アルバイトや海外旅行などを経験し、それぞれに有意義に過ごされた方もいると思います。他方、まだ、大学での学びについて自分なりのやり方や方向を見いだせずに迷い悩んだ方もいると思います。1・2回生で試行錯誤を重ねた人も、これからは腰を落ち着けていよいよ本格的な専門的な分野の学びに進んでいくことになります。3回生以降の重要な学びは、専門演習（ゼミナール）での学びです。ゼミナールの担当の先生のもとで、自分なりのテーマをもって系統的に学んでいきます。ここで、しっかりと専門演習を軸にした学びのスタイルを確立していけば、いっそう充実した学生生活を築いていくことができます。

その意味で、これからみなさんが選択する3回生演習（3回生ゼミナール）は、大学生活のなかできわめて重要な位置を占めています。これからは専門演習を中心に、1、2回生時に獲得したさまざまな学習成果を土台に、産業社会学部での学びをさらに深めていくことになります。3回生演習は4回生演習に接続していて、途中で変わることはできません。その意味で、どの演習（ゼミナール）に所属するかは、皆さんがどのような大学の学びの形を最終的に作り上げるかを決める重要な意味を持ちます。3回生以降は、自ら選択した専門演習（ゼミナール）において、テーマをもった系統的な学びを進めることになります。その意味では、皆さん自身が自らのテーマを明確にして系統的な学びのスタイルを作り上げていくことが求められているのです。専門演習を中心とする大学生活後半の学びは、1、2回生で学び考えてきたことを、大学らしい学問的な基礎をもった知識にしていくことであり、同時に本当の知的体力である考える力を養うところです。また、専門演習は、大学生活後半2年間の皆さんの大学での「居場所」になります。専門演習では、専門的な研究を他のゼミ生とともに共同で進めるとともに、生き方やものの考え方について常に議論し助け合うような意義深い友人関係を築く場所でもあります。

というわけで、専門演習の選択にあたっては、自分自身の問題関心や問題意識をもう一度自らに尋ね、学びたいテーマや内容を明確にし、自分の問題意識にふさわしい演習を選択することが重要です。自分自身の研究テーマをできるだけ早期に発見し、将来を意識した学習を進めることが、確かな“学びの実感”と“方法”を体得し、進路・就職活動時にも「専門演習」での成果を具体的に提示できるようになれるかどうかの要となります。

そして最終的には、自らの“努力の結晶”としての「演習論文」や「作品」として専門的な学びの成果を結実させることになります。そのための一連の訓練と作業を行う場こそ、これからみなさんが選択する「専門演習」なのです。まさに、大学で学んだという“満足感”や“学びの実感”を与えてくれる場が「演習」であり、その“証”が卒業論文などの「成果物」なのです。進路・就職活動においても、また卒業後においても、「大学で何を学んだのか」と聞かれた際に＜「専門演習」での学びの経験と成果＞について自信をもって応えられるものを持っているかどうか問われることになります。

どうか、これから学び取り組んでいきたい研究テーマについて、自分なりによく考え、卒業後の進路や方向性をしっかりと見据えながら、希望する「専門演習」を選択してください。みなさんが選択する「専門演習」には、その演習テーマに造詣の深い指導教員がいます。指導教員は、時には人生の先輩となり、皆さんの学びを助け導いてくれるはずです。また、演習には、同じ分野に興味・関心をもつ友人たちがいます。演習の学びに真剣に取り組む中から、生涯にわたって続く友人を得ることもできるでしょう。

私は、みなさんがこの「専門演習」のなかで大学での学修の総仕上げを行い、自ら考える力、問題を解く力、社会を生き抜く力、を身につけ、自信と誇りをもって社会で活躍されることを強く期待しています。

2011年9月

産業社会学部長 佐藤 春吉

## 1. はじめにー“深めつつ広げる”学びに向けて

2回生の皆さん、産業社会学部での学びの中心となるゼミ（産業社会学部では3回生「専門演習」と4回生「卒業研究」を指します）を選択する時が、いよいよやって来ました。「専門演習」は、産業社会学部における新しい学修スタイルー“深めつつ広げる”ーの機軸となる科目であり、3、4回生での学びをよく考えて応募するゼミを選んで下さい。その意味を以下で説明しておきましょう。

産業社会学部の教学理念は「現代社会の提起するすぐれて現代的な諸問題を既存の学問諸分野との協同によって具体的に解明し、かつ現代社会を新しい方法によって総合的に把握すること」です。現代社会は、ますます複雑化・高度化・国際化の度を高めつつあります。そうした社会で思う存分活躍するために、関連諸分野への目配りの利く新しい専門性を獲得し、多面的に社会的現実アプローチすることのできる資質ー「**社会形成力**」ーを獲得して欲しいと思います。

このための新しい学修のスタイルが、“深めつつ広げる”です。特定の分野や主題だけを単に“深める”だけでは視野の狭さに陥るおそれがあり、焦点を欠いたまま“広げる”だけでは浅薄な博識に落ち込んでしまうかもしれません。それらを回避し、自らの学びを自主的に組織し、**<学際的専門性>**を獲得していきましょう。

「専門演習」はこの学修スタイルを実践していくための機軸であり、小集団教育を軸とした4年間の段階的な**学びの総体を完成させる場**です。どのゼミを選択し、どのようなテーマで学修や“研究”を進めていくのかということは、皆さんがどのような学びを構築し、いかなる知的・精神的力量を形成するか、そしてどのような進路を開拓するのかということに繋がっていく、とても重要な事柄なのです。

「専門演習」を軸として、“深める”ことと“広げる”ことをしっかりと実践し、自分の学びを豊かにしましょう。そして、その学修の成果を「証」として集大成し、形あるものにしましょう。このような知的・精神的生産の経験こそが、**<学際的専門性>**という「社会形成力」を形作っていくのです。

## 2. 産業社会学部でのゼミの趣旨と目的、学部専門科目のなかでの位置付け

「専門演習」は、産業社会学部の新しい学びの中で、“深める”という側面を担うものとしてとても重要な位置を占めています。産業社会学部の多様な教学プログラムを活かし、皆さんの学びを体系化していくために、「専門演習」でしっかりと専門的な学びを深めることが肝要なのです。「専門演習」を中軸として関連諸分野についても学び、その関連諸分野での学びが「専門演習」での学びをさらに深めるというように、好循環を生み出しましょう。そのためには、「専門演習」での学びをしっかりと深めて学びの核を作ることがもっとも重要です。

専門科目の学びを「専門演習」によって束ねつつ深め、そして成果に結実させる。これが産業社会学部の学びの新しいスタイルです。産業社会学部での学びの醍醐味は、講義等を通じて修得したさまざまな知識や情報を吟味・検討する中から自らの観点や問題意識を見出し、今度はそれを中心にして知識や情報を編成し直し、また新たな知識や経験を加えながら、自分自身を立体的に豊かにしていくことにあります。産業社会学部で皆さんに実践してほしい学びとは、そのように皆さんを豊かで魅力ある人にする学びなのです。そして、「卒業論文」や「作品」は、産業社会学部での学びを通じて獲得した皆さんの“豊かさ”と“成長”の証となるものであり、その作成は皆さんの“魅力”につながるものの大事な一つです。

## 3. ゼミ選択への臨み方

産業社会学部での専門的な学びの中心となる「専門演習」の選択は、大学生活の後半2年間をどう設計するかということと不可分です。これまでの自分の学びの到達を踏まえながら、学生生活後半の2年間でどのようなテーマを追究するのかについて、しっかりと熟考してみてください。思いつきや思い込みで、あるいは一時

的な興味関心をもとに「専門演習」を選択するのは、決して望ましいことではありません。“深めつつ広げる”学びを念頭において、大学生活後半の学びの軸となる「専門演習」の選択に臨んでください。自らの学びをどう“深める”か、それをよく考えて応募することを期待しています。

## Ⅱ. 産業社会学部で開講するゼミについて

### 1. 「専門演習」の種類と説明および申請対象者

種類		説明	申請対象者
産業社会学部ゼミ	専攻ゼミ	自専攻の学生のみ受け入れるゼミです ※ 2011 年度は開講しません	自専攻の学生のみ
	ダブルメジャーゼミ	自専攻の学生に加え、ダブルメジャー履修をしている他専攻生を受け入れるゼミです	①自専攻の学生 ②ダブルメジャーゼミを開講する専攻をダブルメジャー履修している学生 ※ 1 回生後期にダブルメジャー登録をしていない学生は、自専攻以外のダブルメジャーゼミに申請することはできません
	学部共通ゼミ	2012 年度より新たに開講する専攻横断的なテーマ設定をしたゼミです	学生の所属専攻に関係なく全ての専攻の学生が申請できます
国際関係学部合同ゼミ		国際関係学部が開講するゼミで、国際関係学部と産業社会学部、法学部、文学部、政策科学部の合同のゼミです	国際インス生限定のクラスと全ての学生を対象としたクラスがあります。 国際関係学部合同ゼミは、産業社会学部の「専門演習」とは別の日程・方法で募集されます。 産業社会学部のゼミと国際関係学部合同ゼミの両方を受講することはできません。

### 2. 「専門演習」のテーマと「領域」

「専門演習」は、クラスごとに専門テーマについて学修を進めていきます。

「専門演習」のテーマはクラスごとに掲げられていますが、専攻の下に「領域」を設け、特定のテーマや課題に共通するキーワードを示しています。

希望するクラスを選ぶにあたっては、個別のテーマや担当教員名だけで決めるのではなく、産業社会学部に入学してきた動機、これまでの専攻での学びにもとづき、今後、学修を深め、展開させていきたいクラスを「領域」や専攻にまで広げて幅を持って検討することが重要です。1つのクラスに希望を絞りきらず、複数のクラスを申込み候補として想定してください。

※ 2012 年度より新たに開講する「学部共通ゼミ」は専攻・領域の設定はなく、専攻横断的なテーマ設定をしたゼミです。

### 3. 「専門演習」と「卒業研究」

産業社会学部では、学部専門科目の後半期学修におけるゼミとして、3回生に「専門演習」、4回生に「卒業研究」を配置しています。「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。

3回生「専門演習」は、年度末にレポートや作品の提出が義務づけられており、成績評価の主たる対象となります。4回生の「卒業研究」では、卒業論文をはじめとする成果物を完成させることを目標に学修を進めていきます。

科目名	専門演習	卒業研究
科目の概要	教養科目、基礎演習Ⅰ・Ⅱやプロジェクトスタディを含む学部共通専門科目、専攻コア科目を含む専門導入科目など、本学部で学ぶ上で必要なディシプリン（学問的な基礎と方法）に関する科目の学修を踏まえ、担当教員の専門的な指導が行われるゼミナール形式により、個人または集団的な学修・研究を進め、その成果を論文や作品として発表できる力量の形成を目指します。	3回生「専門演習」の成果を土台に、専門科目などの学修を踏まえ、個人または集団的な学修・研究を進め、各自の研究テーマと研究計画をもとに、担当教員の指導を受けながら、学修・研究のまとめをおこなうことを目標とします。ここでは、個人または集団的な学修・研究の成果を卒業論文、または卒業論文に代わる成果物に仕上げることを目指します。
配当回生	3回生のみ	4回生のみ
開講期間・単位数	通年・4単位	
先修条件	なし	「専門演習」の単位を修得していることが「卒業研究」受講登録の条件です
受講登録方法 ※2010年度の受講登録方法です。2011年度以降変更となる場合があります。	大学が一括して行いますので、各自が受講登録を行う必要はありません。	各自で受講登録を行います（国際関係学部合同ゼミは各自で登録できませんので、産業社会学部事務室に相談に来てください）
単位認定分野	専門展開科目 ----- ダブルメジャーゼミまたは学部共通ゼミまたは国際関係学部合同ゼミを履修した場合も、自専攻の専門展開科目として単位認定されます	
定員	1クラス15名（産業社会学部ゼミ共通） ----- ●ダブルメジャーゼミのダブルメジャー履修生の定員は定めていません。ダブルメジャー履修生を含めて定員は15名です。 ●国際関係学部合同ゼミの定員等詳細は10月8日（金）公開予定の国際関係学部ホームページを参照してください	